

News Letter

第3号



INDEX

- 理学部長あいさつ
- 理工学研究部テニュアトラックセミナー



理学部長

中村省吾

理工学研究部では、平成24年度に科学技術人材育成費補助事業「テニュアトラック普及・定着事業(機関選抜型)」に採択されたのを機に、「テニュアトラック若手育成部門」を設置し、他部局に先駆けてテニュアトラック制度を導入しています。現在までに、化学分野2名と生物学分野1名のテニュアトラック教員を採用し、柔軟な発想力と国際競争力を併せ持って独創的な研究が遂行できる若手研究者の育成を行っています。

今から30年以上前になりますが、私自身が博士課程の学生であった頃、同じ研究室出身でアメリカに渡った先輩方について、テニュアを取ったとかまだ取れないでいるとか言った話を時々耳にしていました。テニュア(tenure)とは、おもに大学教員の終身在職権と言う意味の英語で、テニュアトラック(tenure-track)教員は、その在職権取得途上の大学教員職を指すそうです。当時もポストドク(postdoc: postdoctoral fellow)が多く、なかなか国内で希望する職種に就けないことに加えて、ポストドクを続けられる環境も少なかったことから、大きな不満を持っていたポストドクが海外に雄飛し、ポストドクからテニ

アトラックを経て、テニュアを得ることを目指す方々もいました。私の先輩の中には、かのジェームズ・ワトソン博士に気に入られ、コールド・スプリング・ハーバー研究所でのポストドクを経た後に大学でテニュアを得て、教授になって活躍されている方もおられます。

そのようなテニュアトラック制度に似た仕組みが、日本でも数年前から作られ、実施されて来ております。博士号取得後10年以内の、若くて優秀な研究者を一定期間(5年間)採用し、その方に、費用や設備、時間などで研究に専念できる環境を提供し、質の高い成果をより多く挙げて頂くものです。その間、学生の研究指導や講義を行う機会も与えられ、教員としての経験も積むことが出来るものです。

現在、理工学研究部で採用している3名のテニュアトラック教員は、国際公募に挑戦して採用された方々だけのことはあって、どの教員も素晴らしい研究をされていることが、セミナーやシンポジウムの発表を通じて伺うことができます。この3名の方たちは、これからも、国内や海外の研究者たちと競争しながら、さらなる業績を積み上げて行かなければなりません。大きなプレッシャーが生じることでしょう。しかし、メンターと呼ばれる助言教員や専任事務職員の、さらには理工学研究部のサポートを受けつつ、その厳しいプレッシャーを撥ねのけて、質の高い先端的な研究を展開されて行かれることでしょう。そして、本学部のテニュアを獲得され、研究・教育に活躍して頂けるものと期待しております。

平成27年度

第1回理工学研究部テニュアトラックセミナー開催報告

平成27年6月29日(月)16時から、理学部A424講義室において「平成27年度第1回理工学研究部テニュアトラックセミナー」を開催しました。北里大学理学部化学科の石田齊准教授を講師としてお招きし、「ルテニウム-ペプチド錯体：ペプチド折り紙から人工光合成へ」という演題にて講演いただきました。講演では、金属錯体を生体高分子であるペプチドに組み込んで折りたたみ構造体(ペプチド折り紙)や酵素といった人工タンパク質を創り出す研究や、それらを巧みに用いて光エネルギーでの二酸化炭素の還元を目指す人工光合成研究の最先端を紹介していただきました。錯体化学の基礎からバイオに至るまでの幅広い分野を、個人的なエピソードも交えながら非常に丁寧に話していただきました。(松村テニュアトラック教員)



第2回理工学研究部テニュアトラックセミナー開催報告



平成27年6月29日(月)17時から、理学部A424講義室において「平成27年度第2回理工学研究部テニュアトラックセミナー」を開催しました。大阪大学大学院理学研究科の船橋靖博教授を講師としてお招きし、「外殻構造が寄与する金属中心の性質」という演題にて講演いただきました。自然界に存在する全酵素の内、約40%が金属イオンを含む酵素であり、中でも、遷移金属イオンを含む酵素は、酸素運搬能や基質酸化・還元能等、生命現象を司る主たる役割を担っています。船橋先生は、遷移金属酵素における心臓部とも言える活性中心部位を独自の観点からモデル化し、錯体化学的アプローチによる分子レベルでの酵素機能・特性の解

明に取り組みられています。本講演では、配位子の剛直な骨格構造や籠型構造という外殻構造を利用することで可能となる遷移金属酵素活性中心モデル錯体の特性・反応性に関し、大変わかりやすく、丁寧にご紹介いただきました。

(大津テニュアトラック教員)

第3回理工学研究部テニュアトラックセミナー開催報告

平成27年7月30日(木)15時15分から、理学部A425講義室において「平成27年度第3回理工学研究部テニュアトラックセミナー」を開催しました。東京工業大学大学院総合理工学研究科の木賀大介准教授を講師としてお招きし、「アミノ酸の種類を19種類以下に減少させる遺伝暗号の「単純化」を活用したタンパク質進化分子工学の展開」という演題にて講演いただきました。講演では、普遍遺伝暗号から特定のアミノ酸を取り除いた単純化遺伝暗号表の構築の詳細について、またその技術を活用した発展研究として、有用タンパク質の創製といった応用から、生命の起源・遺伝暗号の進化といった基礎に至るまで、非常に丁寧に紹介していただきました。合成生物学という分野の基本概念から、最先端の研究、そしてその応用までを軽妙な語り口でわかりやすくお話しいただきました。

(松村テニュアトラック教員)



第4回理工学研究部テニュアトラックセミナー開催報告

平成27年8月4日(火)16時から、理学部C203講義室において「平成27年度第4回理工学研究部テニュアトラックセミナー」を開催しました。宮崎大学フロンティア科学実験総合センター生活活性物質研究部門生理活性ペプチド探索分野の井田隆准教授を講師にお招きし、「新規生理活性ペプチドの探索ーモデル生物を利用してー」という題目にて講演いただきました。



生体内に存在している生理活性ペプチドは幅広い生理作用を担っているため、その多くが創薬のターゲットとなっていますが、一方で新規に発見される生理活性ペプチドの数は年々減少しているのが現状です。井田先生は従来行われてきた哺乳類からの探索ではなく、非哺乳類モデル動物であるショウジョウバエや線虫から新たな生理活性ペプチドを単離するというアプローチにより、新たに複数種の生理活性ペプチドを発見されました。その発見に至るまでの着想と単離の過程、さらには最新の生理機能解析の結果についてご紹介いただきました。

(中町テニュアトラック教員)

編集後記

ニュースレター第3号では、理学部長の挨拶をはじめ、理工学研究部テニュアトラックセミナーの様子を掲載しました。これからもセミナー及びシンポジウムの開催を予定しておりますので、ご期待ください。今後とも本事業にご理解とご協力のほど、よろしく願っています。

News Letter 第3号 平成27年10月発行

【編集・発行】

富山大学大学院理工学研究部テニュアトラック若手育成部門

〒930-8555 富山県富山市五福3190

TEL : 076-445-6545 FAX : 076-445-6549



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。